

## 石田組

志村 良知

石田組という組織をご存じだろうか。その活動域は広域で全国に及び、組織の頭は組長と称し称されている。

その組長とは、神奈川フィルハーモニーの主席コンサートマスターの石田康尚氏、組員は全国のオーケストラや大学から参じた手練れの弦楽奏者たち約20名。奏者はクラシックの弦楽奏者だけであるから基本的にはその演奏は地味になりそうである。

しかし、石田組のスタイルは、チェロ以外は全員立ったまま、演奏曲目もいわゆるクラシックだけでなく、ポップス、ロック、映画音楽、ジャズと何でもあり、編曲と演奏も衣装もかなりというより、目一杯派手である。

2023年の大晦日、みなとみらいホールでの公演の際、石田組長が「来年、必ず日本武道館公演をやる」と宣言、そして2024年11月10日、それは実現した。ネット販売の前売りチケット8000枚は完売。

開演は17時だが、15時過ぎから九段下駅から田安門は大混雑である。性別や年齢層は割と広いが、やはり最も多いのは、家内と同じような石田ファンのご婦人たちである。

我々の席は二階M列でステージまでは約60m、武道館としてはまあまあである。石田組公演は音楽ホールを使い、生音が基本だが武道館ではそうはいかず、PAが入っていた。さらに音楽に合わせてレーザー・ビームを躍らせる演出も。演奏曲目もラベル、ビゼーはあったものの、クイーンやレッドツェッペリン、映画音楽、J-POPSと、もし、バイオリンスト石田の繊細な音色とクラシックの弦楽合奏を期待していたのならずっこける演奏曲目。

アンコールの『銀河鉄道999』では、主催者から観客への仕掛けでスマホのライトを点ける演出があり、もちろん参加した。最後は8000人のスタンディングオベーションで組長を見送った。

ピオラ奏者のMCによると、演奏会の集客に苦しんでいる各地のオーケストラのために、少しでも会場に足を運ぶ人が増えて欲しいというのが、石田組の願いなのでそうである。

(12 Dec 2024)